保育案２

No	5歳児：ぺんぎん組	活動日 2005年　7月 1日（金）	指導者名	○△　□◇
題　材　名	お母さんの得意なこと			
活動主題	C・D	A：材料や技法との出会いや行為を楽しむ。　B：見立てて遊ぶ。 C：いのちのつながりを感じてあらわす。　D：おもいを伝える		

ねらい

■経験させたい材料（用具）や技法
●楽しませたい活動（遊び）
▲育てたい（発揮させたい）力
など

■　使い慣れたパスやコンテで自由に描く。

●　大好きなお母さんのことを思う存分自慢することを楽しむ。

▲　いのちのつながりを感じる力。

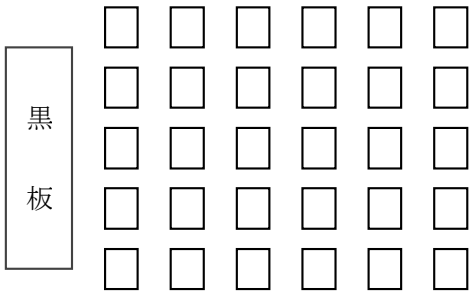
▲　身近な生活へのまなざしを通して表現を広げていく。

準備物

準備するべき材料・用具

・ 画用紙（八つ切り）白
・ パス・コンテ
・ 画板・雑巾

環境設定



・ 子どもへ話す時は前に集める。

導入・支援のポイント

T「先生のお母さんってとっても優しいんだよ！」
S「僕のお母さんも優しいよ」
S「私のお母さんなんかもっと優しい」など…
T「えー！？ホント？先生のお母さんなんかね、料理も上手なんだよ～」
S「僕のお母さんだって…」と次々対抗して自慢話を始める。
※子どもが自慢を始めたら、それを取り上げながら進めるようにする。
T「すごいね、みんなのお母さん。先生知らなかったよ。どんなにすごいか絵に描いて教えてよ」
※自慢だけでなく、家庭での様子など発想の広がりも認め取り上げてあげる。

留意点

・ コンテをはじめから出しておくと、描くことより色遊びになってしまう子どももいるので、パスだけで活動し、コンテは途中から出すようにする。

・ あまり導入に時間をかけ過ぎないように注意する。描きながらお話が広がっていくように活動中の子どもとのコミュニケーションを大切にする。

・ 思いつかない。手が止まっているという子とは個別に話をして、イメージが明確になるように支援する。

省　子どもの状態＆反

・ すぐに自慢話が始まった。子どもにとって自慢のお母さんなのだと言うことがよくわかる。
・ コンテは色遊びや技法的なおもしろさに走る危険があると思っていたが、うまく生かして使っていた。はじめから出してやっても良かったかも知れない。
・ 自慢だけでなく、「車に乗って買い物に行った」「一緒に手伝った」など生活の中でのお母さんとの触れあいをイメージして表現を広げていく子どもも見られた。同じような絵を描く子どもは少なかった。